

また、当センターは、アットホームな空間を目指しており、副作用のことだけでなく、介護や子育て、仕事や趣味、ちょっとした日常のエピソードなど、患者さん・ご家族との「会話」を大切にしています。



パンフレット



ウィッグコーナー

がん化学療法看護認定看護師 新阜 美佳

当院の外来化学療法室のスタッフは、腫瘍内科医師 1 名、薬剤師 1 名（交代制）、看護師計 7 名（4 ～ 6 名／日程度で、がん化学療法看護認定看護師 2 名を含む）で構成されています。

外来化学療法室の主な使用診療科は、腫瘍内科、乳腺科、消化器内科・消化器外科、呼吸器内科・呼吸器外科、泌尿器科、血液内科となっています。また、リウマチ科等の生物学的製剤の点滴も外来化学療法室で行っています。

私は、当院で 2 人目となるがん化学療法看護認定看護師で、約 2 年前に当院に入職致しました。

普段は外来化学療法室でがん薬物療法における安全・安楽・確実な点滴の投与管理から、個々の患者さんに合わせたきめ細やかな副

作用の症状マネジメント、セルフケア支援、心理的サポート、治療選択における意思決定支援など、がん薬物療法を受ける患者さんに寄り添った支援を行っています。外来通院の患者さんは自宅が生活の場となるため、患者さんの生活そのものも含めて身体的・社会的問題や不安・悩み等を一緒に解決出来る様、他職種とも協同しながら全力でサポートしていきます。

また、病棟を含めて院内のがん薬物療法に関わる看護師教育や相談支援も行っています。

国のがん診療拠点病院の名に恥じないよう、がん治療だけでなく看護でもこの病院を選んで頂けるよう、まい進していきたくと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

これからも一緒に泣いたり笑ったりできる関係性を築き、患者さん・ご家族に信頼される看護を実践していきたいと思っておりますので、いつでもお気軽にお声掛けください。どうぞよろしくお願い致します。

Medical News

2022 年 6 月
Vol.179

Shinko Hospital

Contents

- がん相談支援センターの紹介
- がん看護専門看護師の紹介
- がん化学療法看護認定看護師の紹介

■神鋼記念病院理念

公益性を重んじ、質の高い医療を通して皆様に愛される病院を目指します。

■基本方針

1. 快適な医療環境と医療設備を整え、安全で質の高い医療を提供します。
2. 患者さんの人格や価値観を尊重し、プライバシーを守ることを約束します。
3. 断らない救急医療を目指し、地域社会の信頼と期待に応えます。
4. 地域の医療機関や行政との連携を密にし、切れ目のない医療サービスの提供に努めます。
5. 高い医療技術を持った人間性豊かなスタッフを育成します。

社会医療法人神鋼記念会
神鋼記念病院

〒651-0072 神戸市中央区臨浜町 1-4-47

TEL:078-261-6711（代表）

FAX:078-261-6726

URL:https://shinkoh.jp

発行責任者：理事長 山本 正之

編集責任者：神鋼記念病院広報委員長

松本 元

講演会などの
詳しい情報はこちらから！！

神鋼記念病院 🔍 検索

https://shinkoh.jp

がん相談支援センターを どうぞご利用ください



がん看護専門看護師 安藤 公子

皆さま、当院に「がん相談支援センター」が設置されているをご存知でしょうか？

がん相談支援センターは、地域がん診療連携拠点病院の役割である「情報提供体制の整備」の一環として、患者さんやご家族、地域住民の方々を対象に、がんに関するあらゆる相談に応じる場所として利用していただいております。がんの予防や治療方法、副作用に関することや日常生活での悩みや心配ごと、仕事のことなど、がんに関するあらゆる相談に応じる場所として利用していただけます。

今や、がんは国民の二人に一人は罹患するといわれています。がん医療は年々、進化しており、早期治療を行えば完治することも可能な時代となりました。しかし、患者さんにとって、「がん」という病気の重みや深刻さは、計り知れないものがあることを痛感しています。「何を聞いたらいいのかわからない」「こんなこと聞いてもいいのかな…」と、迷った時はまず、お電話ください。相談員として、問題を解決する手掛かりを探るお手伝いをさせていただきます。

相談は完全予約制で、相談は対面もしくは電話相談、ご希望の相談方法でお話を伺います。対面相談では、ゆっくりとお話ができるように個室を準備しております。相談の内容は、秘密厳守としていますので、安心してご利用ください。

このたびがん相談支援センターは、病院敷地内薬局 2 階に移転しリニューアルいたしました。相談室とは別に、がんに関する情報を閲覧できるパソコンや書籍を設置し、皆さまにくつろいでいただけるスペースをご用意しておりますので、ぜひお立ち寄りください。

「人が人間として、その人らしく生きることとは？」を常に考えながら、相談員として真摯に命と向き合ふこと、これはとてもエネルギーを必要とする任務ですが、相談者の方との対話の中で、私自身がどう生きるかをいつも考えさせられ、成長させていただいているような気がします。神鋼記念病院のがん医療チームが一丸となって、皆さまが自分らしく生きることを支援できるよう、これからも努力して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。



がん看護専門看護師の活動について

がん看護専門看護師 沖田 知恵

「緩和ケア」をご存知でしょうか。

「まだ抗がん剤治療中なので緩和ケアは関係ない」「がんやがんの治療は痛くて当たり前。痛みは我慢するもの」「モルヒネなどの鎮痛剤は依存を起こすから、使わないほうがいい」「抗がん剤治療が効かなくなったら受けるもの。緩和ケアになつたらもう終わり」

みなさん、そう思われてはいませんか？

緩和ケアはこのような誤解されていることが少なくないです。

確かに 1990 年頃までは、世界保健機関（World Health Organization：WHO）が、緩和ケアは「治療不可能な状態にある患者」のための終末期医療と定義していた時代がありました。しかし、2000 年代には「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者と家族に対して、疾患の早期より痛みやその他の問題に対応する」とこととなり、時期や場所を問わず、病気を診断された時から受けられる医療・ケアとなりました。

私は、緩和ケアチームの看護師として、外来・入院中の病気の診断直後から終末期に至る様々な段階の患者さんやご家族の対応をしています。患者さんの身体や心のつらさをはじめ、様々な苦痛の緩和を行ったり、困りごとの相談に応じたり、ご要望を伺い、その人らしい生活ができるように、ご家族を含めたサポートを行っています。院内全体で活動し、看護師や他職種からの相談に応じ、一緒にケアや対応を検討し、多職種と連携・協働し活動しています。

当院では、様々な職種のメンバーが集まり、「緩和ケアチーム」を作っています。緩和ケアチームは、医師、看護師、薬剤師、作業療法士、管理栄養士等で構成されています。

一人ひとりの希望や思いに寄り添いながら、より良い生活が過ごせるように一緒に考えていきます。

また国指定のがん診療連携拠点病院として質の高い緩和ケアや看護が提供できるよう、しくみづくりや教育活動に携わっています。



緩和ケアチーム

メッセージ

緩和ケアとは、「重い病を抱える患者さんやご家族の身体や心などの様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケア」のことです。

いつでもあなたが必要とする時に、病気の治療と一緒に受けることができます。

痛みやそれ以外の身体のつらい症状、不安や心配事等の心のつらさ、仕事のこと、経済的なこと、家庭のこと等の気がかりと一緒に向き合っていくことで、治療に取り組む力が湧いてきます。

あなたらしい生活ができるよう、チームで全力でサポートします。

外来でも入院中でも、相談したいことがあれば主治医や看護師等に遠慮なくお声をお掛けください。

がん化学療法看護認定看護師の活動について

がん化学療法看護認定看護師 柴田 恭子

活動紹介

薬物療法が外来で実施されることが一般的となり、多くの患者さんが通院治療をされています。薬物療法で使用する薬剤には、アレルギーのリスクが高いものや、様々な副作用があるものなどがあります。このような薬剤（がん治療薬や自己免疫疾患の治療薬など）を使った治療を受けられる患者さんは、専門的知識・技術を有する医師、看護師、薬剤師が配置され、かつ設備、物品、環境を整えた外来化学療法センターで治療を受けて頂きます。

私は、2015 年にがん化学療法看護認定看護師の資格を取得し、2019 年 4 月から外来化学療法センターで勤務しています。この 3 年間の活動をとおりて、外来化学療法センターを紹介したいと思います。

① 看護体制



受け持ち体制を取り入れ、患者さん・ご家族の変化をいち早くキャッチできるよう取り組んでいます。また、症状の問診票を活用し、患者さんの体調を確認しています。看護カンファレンスで支援方法を検討したり、勉強会を開催して最新の知識を得るようにもしています。昨年からは、抗がん剤投与時の静脈穿刺も看護師が実施するようになりました。

② チーム医療

治療開始前に、薬剤師と看護師で合同ミーティングをしています。医師とも情報を共有し、適宜報告しながら状況に合わせて対応しています。アレルギー出現時にはすぐに医師へ報告し、素早い対応を実施しています。また、各診療科との連携だけでなく、緩和ケアチーム、がん相談支援センター、医療相談室、栄養室などとも連携し、患者さん・ご家族を関係する専門部門につなぐ支援もしています。



合同ミーティング風景

③ センター内の環境

ベッド 5 台、リクライニングチェア 7 台、テレビ 1 台を設置しています。その他、これから治療が始まる患者さん・ご家族にも情報が収集しやすいよう入口にウィッグコーナーやパンフレットを設置しています。今年は、安楽な環境で治療を受けて頂けるようリクライニングチェアのリニューアルや、静かな環境作りも検討しています。